



看取りの文化を構想する

□オンライン開催

死生学研究所ホームページから
お申込みください

□お申込み締め切り

2023年11月8日(水) 17時

□お問合せ 死生学研究所 shiseigaku@toyoeiwa.ac.jp

□先着 100名様

□参加費 無料

お申込みはこちら



第6回連続講座

山田千香子

聖徳大学

(やまだ ちかこ) 心理・福祉学部教授

11月11日(土)

16:20-17:50

「放っておかれないしま」

■プロフィール

聖徳大学心理・福祉学部教授、学長補佐(内部質保証担当)、社会福祉学科長

学術博士(文化人類学・お茶の水女子大学)、長崎県立大学名誉教授、長崎県立大学附属図書館長、長崎県労働委員会公益委員、長崎県文化財保護審議会委員、長崎地方裁判所家事調停委員、など歴任。現在、松戸市環境政策審議会委員、長崎県文化財保存審議会委員、佐世保市黒島の文化的景観保護推進委員会委員、小値賀町文化的景観保護審議会委員等就任中。

「文化変容」をテーマとして日本から海外へ移住した人々の、日系一世、二世、三世、四世の世代的変遷をアメリカやカナダで調査してきました。

■主要業績

「放っておかれないしま」浮ヶ谷幸代・田代志門・山田慎也編『現代日本の「看取り文化」を構想する』東京大学出版会、2022年8月、p.289-313

「夢見るーバンクーバーにおける移住高齢者の生活とコミュニティ」鈴木七美編『高齢者のウェルビーイングとライフデザインの協働』御茶ノ水書房、2010年10月、p.85-101

『カナダ日系社会の文化変容ー「海を渡った日本の村」三世代の変遷』御茶ノ水書房、2000年2月(第10回カナダ首相出版賞受賞)

内容紹介：

住み慣れた地域や自宅に最期まで住みつづけたい、しまで最期を迎えたい。これはたとえ不便だといわれる離島地域に住んでいても住民が抱く自然な想いです。しかし離島地域の現状はますます厳しさを増し、人口減少・高齢化の進展、さらには限界集落の拡大によって島の存続さえも懸念されている状況にあります。

本報告では日本の過疎地の経験に注目し、医療・福祉資源の乏しい離島だからこそ求められる地域住民の「終の住み処」としての地域を支える支援機能を考察していきます。日本の過疎地の経験に注目するのは、高齢化が著しく進行する離島や過疎地の姿が一步先の日本社会の姿とも指摘されているという理由からです。長崎県の離島において、既存の地域コミュニティを活かしながらも葛藤し新しいものに変容していく島の事例をご紹介します。本人の願い「しまでの看取り」を叶えようとしている島です。

〈予告〉

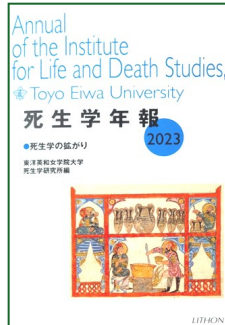
◇第7回〈公開〉連続講座

2023年12月23日(土)

16:20~17:50

田代志門

(東北大学大学院文学研究科 准教授)



東洋英和女学院大学死生学研究所編

死生学年報2023

「死生学の拡がり」

◆書店にて定価2,500円+税でご注文、ご購入いただけます

◆お問い合わせ 東洋英和女学院大学 死生学研究所

shiseigaku@toyoeiwa.ac.jp